

# 教育研究業績書

2024年10月22日

所属：食生活学科

資格：准教授

氏名：堀木 真由美

研究分野	研究内容のキーワード
糖尿病の予防と治療	糖尿病、食事療法、インスリン、予防医学
学位	最終学歴
医学博士	愛媛大学医学部医学科

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 授業毎に理解度の確認	2009年4月	授業ではPowerPointで作成した資料をスクリーンで供覧する。授業の終わりに、その日の講義内容について小テストを施行し、答え合わせを含めて時間内に理解度を確認する。
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 日本内科学会総合内科専門医	2019年12月17日	
2. 日本人間ドック学会人間ドック認定医	2015年4月1日	
3. 日本内科学会認定医	2007年10月2日	
4. 日本医師会認定産業医	1999年9月28日	
5. 医師免許	1995年4月28日	
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1. Needleless in vivo gene transfer into muscles by jet infection in combination with electroporation.	共	2004年10月	Gene Med 6(10) : 1134-8	水流ジェットと電気穿孔法を用いて筋肉内に遺伝子導入する方法を確立した。Horiki M, Yamato E, Ikegami H, Ogihara T, Miyazaki J-I
3 学術論文				
1. Association of Prol2Ala polymorphism of PPARGgamma gene with insulin resistance and related diseases.	共	2004年12月	Diabetes Res Clin Pract. 66 Suppl 1 : S63-7	PPARGgamma遺伝子のProl2Ala多型のインスリン抵抗性及び関連疾患委に対する感受性への寄与を明らかにするために、日本人被験者と調査した。Prol2Ala多型は、2型糖尿病および高血圧に対するインスリン感受性には寄与していないことが示唆された。Mayumi Horiki, Hiroshi Ikegami, Tomomi Fujisawa, Yumiko Kawabata, Masaya Ono, Masanori Nishino, Kazuaki Shimamoto, Toshio Ogihara
2. Common genetic basis between type 1 and type 2 diabetes mellitus indicated by interview-based	共	2004年12月	Diabetes Res Clin Pract. 66 Suppl 1 : S91-5	1型および2型糖尿病の家族内発生を調査するために、糖尿病の家族歴をインタビューベースで評価した。1型糖尿病と2型糖尿病とも発端者のおよあの糖尿病有病率は非糖尿病の発端者よりも有意に高かった。Tomomi Fujisawa, Hiroshi Ikegami, Yoshihiko Kawaguchi, Koji Nojima, Yumiko Kawabata, Masaya Ono, Masanori Nishino, Shinsuke Noso, Hidenori Taniguchi, Mayumi

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
<b>3 学術論文</b>				
assessment of family history. 3.High-lebel expression of iterleukin-4 following electroporation-mediated gene transfer accelerates Type 1 diabetes in NOD mice.	共	2003年3月	Autoimmun 20 : 111-117	Horiki, Michiko Itoi-Babaya, Naru Babaya, Kaori Inoue, Toshio Ogihara IL-4は抑制性サイトカインである。NODマウスの筋肉内にIL-4遺伝子を導入し、全身のIL-4血中濃度が上がると、糖尿病の発症率は高くなった。IL-4の持続的高値はTh1シフトを起こすと考えられる。 Horiki M, Yamato E, Noso S, Ikegami H, Ogihara T, Miyazaki J
4.Lack of association between hepatocyte nuclear factor-1 beta gene and common forms of type 2 diabetes in Japanese population.	共	2001年8月	Diabetes Nutr Metab. 14(4) : 220	肝細胞核因子1ベータ(HNF-1beta)遺伝子の変異は、若年発症成人型糖尿病(MODY)の原因であることが示されている。2型糖尿病とHNF-1beta領域の2つのマーカーと対立遺伝子との関連を調査した。HNF-1beta遺伝子の変異は、日本人集団において、2型糖尿病の主な原因ではないことが示された。N Babaya, H Ikegami, T Fujisawa, M Hotta, H Ueda, M Shintani, K Nojima, Y Kawabata, M Ono, M Nishino, M Itoi-Babaya, H Taniguchi, S Noso, M Horiki, K Yamada, Y Kawaguchi, M Fukuda, T Ogihara
5.Polymorphism in gene for islet autoantigen, IA-2, and type 1 diabetes in Japanese subjects.	共	2001年5月	Hum Immunolo. 62 (5) : 518-22	日本人被験者と対象に、IA-2遺伝子多型と1型糖尿病との関連を調べた結果、IA-2遺伝子多型は、日本人被験者の1型糖尿病に対する感受性または不均一性のいずれとも関連がなかった。
6.A case of mild type myotonic dystrophy with dementia and severe arteriosclerosis obliterans.	共	1998年2月	日本老年医学会雑誌 35(2)136-8	軽症型筋緊張性ジストロフィー(MyD)の一症例。MyD診断後2年間で閉塞性動脈硬化症、その後認知症と診断された。軽症のMyDでも、MyDの異常な遺伝子が老化プロセスを加速させる可能性がある。M Horiki, A Morishima, H Yamagata, H Rakugi, H Ikegami, T Miki, T Ogihara
<b>その他</b>				
<b>1. 学会ゲストスピーカー</b>				
<b>2. 学会発表</b>				
1.電気穿孔によるIL-4遺伝子導入のNODマウスの糖尿病発症に対する効果	共	2001年4月16日	第44回日本糖尿病学会	NODマウスの筋肉内に抑制性サイトカインであるIL-4遺伝子を導入し、全身のIL-4血中濃度が上がると、糖尿病の発症率は高くなった。IL-4の持続的高値はTh1シフトを起こすと考えられる。堀木真由美、倭英司、宮崎純一
2.電気穿孔法を用いたサイトカイン遺伝子導入の糖尿病発症に対する効果	共	2000年11月14日	第30回日本免疫学会	電気穿孔法を用いて、NODマウスの筋肉内に効率よくIL-4遺伝子を導入した。IL-4は抑制性のサイトカインであるが、全身のIL-4血中濃度が上がると、糖尿病の発症率は高くなった。堀木真由美、倭英司、宮崎純一
<b>3. 総説</b>				
1.1型糖尿病の遺伝子療法	共	2001年12月	B10 Clinica, 16巻13号 ; 1236-1239	NODマウスを用いて試みられている、膵島局所の免疫応答を抑制する遺伝子治療の方法について概説した。堀木真由美、池上博司、荻原俊男
2.インスリンペプチドやGADによる1型糖尿病のワクチン療法	共	2000年12月	内分泌・糖尿病科, 11巻6号 ; 574-578	1型糖尿病の遺伝子治療として検討されている、インスリンペプチドやGADを標的とした免疫寛容型ワクチンについて概説した。堀木真由美、池上博司、荻原俊男
<b>4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績</b>				
<b>5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等</b>				
<b>6. 研究費の取得状況</b>				

学会及び社会における活動等	
年月日	事項